

世界史 大阪大学 文学部 (前期) 1/4

(I)

| | |
|----|---|
| 問1 | 匈奴が南北に分裂した際、南匈奴は後漢に服属し、3世紀頃からの気候の寒冷化を背景として遊牧民の南下がすすんだ。西晋になると、帝位をめぐる八王の乱が起こり、八王が遊牧民の軍事力を利用したこともあり、五胡と総称される匈奴・羯・鮮卑・氐・羌が華北に建国して興亡し、この間に、匈奴が永嘉の乱を起こして西晋を滅ぼした。(153字) |
| | |
| | |
| | |
| | |

| | |
|----|------|
| 問2 | エフタル |
|----|------|

| | |
|----|--|
| 問3 | 高句麗・新羅・百済が互いに対立する中で、新羅は唐と結んで百済を滅ぼし、ヤマト王権と結んで再興をめざした百済軍を白村江の戦いで破ったあと、高句麗をも滅ぼした。その後、新羅は、唐の残存勢力を駆逐し、朝鮮半島の統一を実現した。(110字) |
| | |
| | |

| | |
|----|---|
| 問4 | ア |
|----|---|

世界史 大阪大学 文学部 (前期) 2/4

(II)

| | |
|----|---|
| 問1 | 当時オランダとの交易を行っていた日本で、江戸幕府がキリスト教を全面的に禁止し、鎖国政策が強化されると、キリスト教徒の日系人女性らは日本を離れてオランダのアジア貿易の拠点であるジャワ島のバタヴィアなどに移住した。(105字) |
| | |
| | |

| | |
|----|--|
| 問2 | オランダ東インド会社は、各地に商館を建設して拠点とし、アンボyna事件を機にイギリスをモルッカ諸島から排除し、ポルトガルからマラッカやスリランカを奪って香辛料貿易を独占的に支配した。また台湾を領有する一方、鎖国する日本ともヨーロッパ諸国の中で唯一交易を維持し、中国産の絹や生糸を日本産の銀と交換して大きな利益を得た。(157字) |
| | |
| | |
| | |

| | |
|----|---|
| 問3 | エ |
|----|---|

| | |
|----|---|
| 問4 | ウ |
|----|---|

世界史 大阪大学 文学部 (前期) 3/4

(Ⅲ)

| | |
|-----|---------------------------------------|
| 問 1 | 日英通商航海条約 領事裁判権の撤廃，関税率の引き上げ，相互対等の最恵国待遇 |
|-----|---------------------------------------|

| | |
|-----|---|
| 問 2 | イラン立憲革命 (青年トルコ革命 ドンズー運動 インド国民会議カルカッタ大会 中国同盟会結成) |
|-----|---|

| | |
|-----|--|
| 問 3 | 第一世界大戦後，14カ条に基づく民族自決の原則はアジア地域に適用されず，これに反 |
| | 発して民族運動が激化した。インドでは，約束されていた自治が実現しなかったことに対しサティ |
| | ヤーグラハ運動が起こった。朝鮮では日本の支配に対抗して三・一独立運動が起こり，中国ではパ |
| | リ講和会議で二十一カ条要求の撤廃が承認されなかったため，これに反発して五・四運動が起こっ |
| | た。日本は三・一独立運動を弾圧し，北京の軍閥政権を支援するなど帝国主義政策を進めた。(213 |
| | 字) |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

世界史 大阪大学 文学部 (前期) 4/4

(Ⅲ)

| | |
|---|--|
| 問 4 | 中華人民共和国建国後, 1950 年に中ソ友好同盟相互援助条約が結ばれ, ソ連は中国の第 |
| 一次五カ年計画を支援するなど, 両国は協調して資本主義陣営と対峙した。しかし 1956 年にフルシ | |
| チョフがスターリン批判を行い平和共存路線に転じると両国関係は悪化し, ソ連は中国との技術協 | |
| 定を破棄し, 1960 年代末には国境紛争が勃発した。1980 年代にゴルバチョフが新思考外交を開始し | |
| て関係改善の気運が高まると, 1989 年のゴルバチョフ訪中で関係正常化が実現した。(204 字) | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |